

## 論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨の公表

学位規則第 8 条に基づき、論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

フリガナ 氏名 (姓、名)	イ ジョンウン <b>LEE Jung Eun</b>	授与番号 甲 1523 号
学位の種類	博士(国際関係学)	授与年月日 2021 年 9 月 25 日
学位授与の要件	本学学位規程第 18 条第 1 項該当者 [学位規則第 4 条第 1 項]	
博士論文の題名	アジアの英語教育産業が形づくるトランスナショナルな移動 —メゾ構造としてのフィリピンの韓国系英語学校を中心に	
審査委員	(主査) 南川 文里 (立命館大学国際関係学部教授)	中本 真生子 (立命館大学国際関係学部准教授)
	小ヶ谷 千穂 (フェリス女学院大学文学部教授)	
論文内容の要旨	<p>本論文は、国際移動研究の視点から、アジアの英語教育産業がどのようにトランスナショナルな移動を形づくっているかを論じたものである。近年の国際移動研究では、国境を越える移動を規定するメゾ構造として、移住者の形成するネットワーク、移住斡旋業者、移住産業などの機能に注目が集まっている。本研究では、アジア英語留学の目的地としてのフィリピンにおける韓国系英語学校に注目し、そのメゾ構造として、留学生の移動と受け入れ社会のあり方に、どのように影響を与えているかを明らかにする。</p> <p>第 1 章では、フィリピンにおける英語留学の概要とその背景について議論する。フィリピンでは、アメリカ植民地時代に英語教育が導入され、独立後も、高校以上の教育、官公庁・企業などで広く英語が使用されている。外国人を対象とした英語学校は、1990 年代初頭に韓国人宣教師への英語教育を目的に設立され、その後一般の韓国人留学生を対象とするようになった。その後、フィリピン留学は、韓国国内での英語教育熱の高まりと留学の大衆化を背景に、安価で効率的な留学として注目されるようになった。</p> <p>第 2 章では、フィリピンの韓国系英語学校がメゾ構造として有する機能について考察している。フィリピンに開設された韓国人経営の英語学校の多くは生活全般のサービスが提供される全寮制で、学生の日常生活を徹底的に管理する「スパルタ・システム」を導入している。これは、韓国国内の民間英語学校の制度を持ち込んだものであり、資金面や英語力で欧米やオーストラリアへの留学が難しい層を引きつけた。英語学校は、英語圏におけるワーキングホリデー制度と「連携」して非熟練労働者を供給している。また、アメリカ人の「ネイティブ英語」を上位とする英語の階層構造とも無縁ではない。</p> <p>第 3 章では、フィリピンの英語学校で学ぶ留学生の動機を分析している。留学生は、英語力の習得と高い「コストパフォーマンス」からフィリピン留学を選んだとされるが、本論文では、「英語を話す自信や海外滞在経験」の獲得や韓国社会からの「逃避」も重要であったことが明らかになった。また、子どもとともに移動する母親の経験から、「マネージャーとしての母親業」というジェンダー規範の再定義を伴っている点も指摘された。</p>	

<p>論文内容の要旨</p>	<p>第4章では、フィリピン人英語講師の職業移動経験から英語を媒介したトランスナショナルな労働市場における英語学校の職場としての側面が考察される。英語学校のフィリピン人講師の多数が女性であり、前職として欧米企業の業務委託先であるコールセンターで働いた経験を持っていた。彼女たちは、英語能力を媒介に、コールセンター、英語講師、海外移住労働を行き来しており、低賃金やキャリア蓄積の困難といった問題を抱えつつも、「英語講師」としての仕事の意義を主体的に意味づけている。</p> <p>以上の考察をふまえ、結論では、アジアにおける新自由主義の広がりの中、フィリピンの英語学校は、留学生や英語教師を巻き込みながら、トランスナショナルな英語教育産業の新たな機会を切り開いたこと、そのなかに人種やジェンダーをめぐる関係性の再編が組み込まれたこと、しかし、その制度的基盤は脆弱であり、2020年以降の新型コロナウイルス感染拡大によって新たな危機にさらされていることが指摘された。</p>
<p>論文審査の結果の要旨</p>	<p>本論文の特徴として、韓国系英語学校が、韓国人企業家、韓国人留学生、韓国以外の国の留学生、そして英語講師などの複数のトランスナショナルな移動が重層的に交差する場となる過程とそのメカニズムを明らかにしたことが挙げられる。留学生の移動だけに着目する既存の移住研究に対し、グローバルな社会変動の中でのメゾ構造としての英語学校を通して、複数の移動が喚起され、相互に連結する過程を追うことで、移民研究としても新しい視点を提示することに成功している。</p> <p>また、21世紀における韓国社会およびフィリピン社会の変化を分析した地域研究としても優れた分析となっている。フィリピン英語留学という事例から、新自由主義改革が進む韓国における教育戦略やキャリア構築のトランスナショナル化、移民送出国家として知られるフィリピン国内における英語関連産業の再編といった変化が浮き彫りになっている。</p> <p>加えて、ジェンダー分析としても優れている。英語学校のシステムにはさまざまなジェンダー関係が埋め込まれており、たとえば、「ネイティブ講師」には欧米諸国出身の中高年男性が多いのに対し、フィリピン人英語講師の大半は若い女性である。そして、留学生向けの英語教育で強調されるフィリピン女性の「ケア」や「ホスピタリティ」の言説は、女性移住労働の領域で用いられるものと共通している。さらに、留学という家族戦略の中での母親役割が再定義されることを指摘しており、英語留学産業を規定してきたジェンダーに関わる規範や秩序の存在に光を当てることに成功している。</p> <p>一方で、韓国系英語学校と留学生の移動を扱った2章・3章とフィリピン人講師の階層移動を扱った4章のあいだの接合性については、改善の余地がある。本論文では、留学生と英語講師の移動が別々に分析されており、留学生と講師、学校経営者と講師のあいだの関係についてフィールド調査を踏まえて詳細に記述されているわけではない。英語学校での日常的な場面についてのエスノグラフィックな記述を充実させることで、2・3章と4章のあいだを結びつける分析も可能であったのではないかと考えられる。また、「下からのトランスナショナリズム」など一部のキーワードが、概念規定や射程についての説明が不十分なまま用いられている。</p> <p>以上のような課題については、公聴会における質疑応答の中かでLEE Jung Eun氏によって丁寧かつ明確に説明がされた。審査委員会としては、これらの課題は、本論文の議論の射程の広さと、今後の研究発展の可能性を示すものであると判断した。</p>

試験または学力確認の結果の要旨

本論文の公聴会は、2021年6月15日（火）15時00分から16時30分まで衣笠キャンパス恒心館2階KS208号教室で行われた。主査および副査は、論文審査および公聴会での質疑応答を通して博士学位に相応しい能力を有することを確認した。その上で、審査委員会は、本学学位規程第18条第1項に該当することを確認し、LEE Jung Eun 氏に博士（国際関係学 立命館大学）の学位を授与することが適当であると判断した。